

印象的なJR飯田線「天竜峡駅」をバックに全員集合(まだ元気で)



昭和レトロ風のデザインが、瞬く間に天龍峡に到着。



は船着き場があり、利用済みの船を巧みにクレーンで吊って三艘重ねて大型トラックに積み込んでみる(上流の乗り場に回送する模様)。めっ

6月22日(火)午前8時半、経験豊かなバスガイドも顔負けのスタッフGさんの明るく心弾む点呼を耳に、12名の参加者を乗せた貸し切りバスは、予定通りに松原地区公民館を出発。中央高速道をひたすら飯田方面へ。事前の雨天予想に反し、梅雨模様のもやみ空から時折り陽射しもこぼれ、絶好のウォーキング日和。車窓には、駒ヶ岳の千畳敷カールの残雪も見え隠れする。コロナ禍のせいか観光バスの群れにも出会わず、快適に三遠南信自動車道に入り、瞬く間に天龍峡に到着。

を一段と増して激流さながらの迫力がつる。橋の袂に「天竜ライン下りのりば」の看板も(絶叫体験型コースとか?)。館長の音頭でストレッチ体操に興じたのち、いよいよここから、全行程7キロ・約2



駅の傍には、天龍峡の深い渓谷に青緑色の清流が。時節が梅雨の水量

時間半のウォーキングが始まる。自称「るるんぐグループ」の健脚ぶりのお披露目です。天龍川左岸の整備された遊歩道を遡行し、折り返し点の天龍橋までは、「天龍峡桜街道」と名づけられた桜並木が続く。いずれも「御衣黄」などの貴重な品種、十数種類の八重桜の銘木ばかり。爛漫の春の豪華な桜絵巻を幻想しながら、各自思い思いの速度で歩みを進める。遠く中央アルプスのやまなみも望まれ、見晴るかす限り広々とした河川敷から吹きそよぐ川風の頬触りが、ここちよく疲れを癒してくる。暗い時勢の鬱憤をよそに、久しぶりのゆったりとした解放感を満喫。

かつて味わった最上川船下りの波しぶきの感触や、まだ就学前の子供のころに、激流逆巻く酒匂川に架けられた高く長い木製の橋(ところどころ穴が開いていた)を、母の手にすがってこわごわ渡った光景など、いろいろと思い出されました。年をとるとささやかな感動の度に、昔の思い出があれこれと浮かびあがります。体力ばかりでなく、懐かしい記憶をも甦らせてくれた、今回のウォーキングに感謝。

それにしても、「龍・竜」の表記は、なぜこんなにもバラバラなんだろう。「公式GUIDE MAP」は「天龍」、JRの駅名表示や地元川下り会社の看板には「天竜」。今の常用漢字「竜」は「龍」の略体として広く通用するが、甲骨文字に準じた由緒正しい古形でもある。「竜」の甲骨文字は「𪛗」。



▲川沿いの工場スローガン
天龍橋脇の停留所



ホテル観察会

夕暮れの川辺で見るホテルは、いつ見ても癒されます。今年も、内田の塩沢川で行われる観察会に参加しました。当日は曇りのせいで発生の最盛期前にも関わらず、優しい光の競演を楽しむことが出来ました。

6月は源氏ホテルの出版ですが、7月になると平家ホテルに入れ替わるそうです。それぞれの名前の由来は、源氏と平家の魂が死んでもなお合戦を繰り広げている様だからという説があります。関東の源氏ホテルの点灯間隔は約4秒、関西以西は約2秒で、混在することはないそうです。それは、ホテルの移動距離は意外に短く、ほとんどが生まれた川で成虫になり、その川に子孫を残していることが大きく影響しているようです。

塩沢川では川底をさらった人工的に整地したりしないで、自然のままを維持することでホテルの生息域を守っています。案内していただいた松本ホテル学会の藤山静雄先生は、川全体を草ぼうぼうにして、全ての自然を保護し続ける必要はなく、人の生活圏と動植物の生活圏を上手に共存させることが大切と仰っていました。

歩いてめぐる 学都松本の近代史

皆さん、下に
ある文字を読め
ます
でしょうか。普
段

くつわ
轡

下を挟む形の西洋風の校舎が完成し、数々の独創的な学校教育を展開してきます。

皆さん、下に
ある文字を読め
ます
でしょうか。普
段

皆さん、下に
ある文字を読め
ます
でしょうか。普
段

皆さん、下に
ある文字を読め
ます
でしょうか。普
段

防災講座 受講報告 第5町会 宮澤 信

気象庁は天気予報を出すだけでなく、防災気象情報の発表が重要な使命である。そして、自治体は、発表された情報をもとに、避難指示等の「行動を促す情報」を発令する。山梨地方気象台では、今年度改訂された防災気象情報のポイントと災害事例について解説いただいた。山梨県の災害事例ではあるが、長野県も

気候や地勢が類似しており有意義である。防災気象情報は、警戒レベルが1〜5の5段階に数値化されているが、今年度からレベル4は避難指示に1本化され分かりやすくなっている。情報を活用するのは私たちであり、レベル4までに必ず避難することが重要である。

では、地域における「自助・共助」の重要性を学んだ。地震体験は貴重である。震度7の大地震では何もできないということを実感できる。揺れる前に備えること、揺れが収まった後に何をすべきかなど、改めて考える機会となった。

松原地区は、内陸活断層としては全国トップの危険度となっている牛伏寺断層を身近に控え、牛伏川の土石流に



大きな揺れは予告されても対応が難しい！

日本建築で建てられた旧山辺学校



数々のお話をお伺いし、教室での模擬授業も体験させていただきました。

明治維新後の日本が短期間に欧米列強との距離を縮めることが出来たのは、教育を尊ぶ人々の熱い思いが大きく貢献しました。この講座で、学校や社会教育にもっと積極的に係るように、先人たちからお尻を叩かれた気がします。

時代に
明に
使わ
れた
本
教



からくり時計

昨年度の求人、ある職安管内の資料によると一昨年に比べ全体で2割減少。飲食・宿泊関係の求人は激減。製造業の求人大幅に減少との事。コロナ2年目の今年も昨年並みの求人になるのではないかとの予想のようだ。あくまで私見だが、この禍中で就職できた会社だからといって定年まで勤め続けたほうが良いとは思わない。会社を転々とするのも良いと思うし、卒業後すぐ就職しないのも良いと思う。ただし、日本企業の多くは新卒以外を積極的に採用しようとする事は少なく、既卒の場合は募集すら行っていないという会社が多い。新卒と既卒の人の間に決定的な能力差があるわけでもないのに「新卒」というカードが無くなった時点で驚くほど就職先は少なくなってしまう。これは言うものの物事にはタイミングがあり卒業時期とマッチするかわからない。最終的には成りたい自分や就きたい職業、自分に合った職種を見つけて自立して生きてくれりやそれでもいいと我が子に対して思っている。